

# ハンセン病に関する「親と子のシンポジウム」 那覇会場



# 正しい知識と行動で 「共に生きる」社会の実現を

日本には「ハンセン病」の患者や回復者、その家族が、誤った認識による偏見により、長い間差別を受けてきた歴史があります。そんなハンセン病について親子で正しく理解するためのシンポジウムが、8月26日に沖縄県那覇市で開催されました。プログラムは、ハンセン病回復者による講演や、地元の中高生が参加するパネルディスカッション、映画の上演など。参加者は、ハンセン病を取り巻く問題を考えてるとともに、幅広い人権を尊重する大切さを学びました。



司会を務めた  
**比嘉 光悠 さん**  
(名護市立久辺中学校2年)

## ハンセン病とは

ハンセン病は「らい菌」という細菌に感染することで起こる病気です。手足の指先の神経が麻痺したり、皮膚が変形したりすることがあります。しかし、らい菌の感染力は極めて弱く、感染しても発病することはほとんどありません。発病しても適切な治療を受ければ治ります。

### 基調講演

#### 繰り返された人権侵害



国立療養所沖縄愛楽園自治会  
会長  
**金城 雅春 さん**

ハンセン病患者を一般の人と離れて生活させることを定めた法律が制定されたのは、明治40年。戦後以降の沖縄では、本土とは違い限定的な退所や在宅治療が認められたものの、療養所内で人権侵害が繰り返されたことも事実です。平成8年に、明治の法律が強化された「らい予防法」がようやく廃止されました。皆さんには、こうした歴史をより多くの人へ伝えていってほしいと思います。

### 映画「あん」上映／トークショー

#### “人間が生きる意味”とは

どら焼き店の雇われ店長と求人募集の張り紙を見てやってきたハンセン病回復者の出会いから別れまでを描いた映画「あん」を鑑賞。上映後に



女優 **浅田 美代子 さん** 作家、詩の道化師 **ドリアン助川 さん**

## 幅広い世代と立場からハンセン病問題を考える

### パネルディスカッション

#### いま私たちにできること

<パネリスト>

#### 身近に潜む偏見

中城村立中城中学校2年  
**棚原 未央 さん**



ハンセン病患者・回復者だけでなく、家族も差別をされたことにショックを受けました。誰もが自分らしくいられるよう、身近な人権侵害から止めていきます。

#### 風化を防ぐために

名護市立久辺中学校2年  
**久志 顕介 さん**



ハンセン病問題は、決して風化させてはなりません。社会全体で反省して次世代に真実を伝え、“受け入れられる社会”づくりをしていくべきです。

#### “最後の世代”の使命

沖縄カトリック高等学校2年  
**渡久地 礼李 さん**



私たちは当事者の話を聞ける最後の世代。未だ残る差別や偏見をなくするために、回復者の方と交流を持ち、療養所や資料館を訪れたいです。

<コメンテーター>

#### 語り部の育成を目指す

**金城 雅春 さん**

ハンセン病問題を語り継いでいく人たちを育てることが必要です。沖縄愛楽園では、園内ボランティアガイドの養成講座を開いています。

#### 関心を持つことから

国立療養所沖縄愛楽園園長  
**野村 謙 さん**



ハンセン病療養所の入所者は家族に迷惑がかからないよう、本名とは別の「園名」を名乗りました。皆さんは、まず関心を持つことから始めてください。

<コーディネーター>

#### あらゆる差別の解消へ

公益財団法人人権啓発推進センター理事長  
**横田 洋三 さん**



ハンセン病問題を正しく理解して、行動に移すことはもちろん、それをきっかけにしてあらゆる差別について考えることも重要です。

このシンポジウムの模様は、動画共有サイト  
YouTubeの【人権チャンネル】でご覧いただけます。  
<https://www.youtube.com/jinkenchannel>

知っていますか？「子どもの人権110番」  
いじめや体罰などの困りごと、ひとりで悩まないで相談してください。

**子どもの人権 110番** 0120-007-110  
(通話料無料)

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会

インターネット人権相談 検索



人権イメージキャラクター  
人KENまもる君